

## 事業所における自己評価総括表

公表

○事業所名	こばんはうすさくら西白井教室			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ~ 2025年 11月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53名	(回答者数)	40名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ~ 2025年 11月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	18名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 4日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	カリキュラム案など、各フロア全体で話し合いを行っており、積極的に意見がでているため、いろいろな活動や外出訓練などの実施ができている。	5領域について職員全体がしっかりと認識することができるよう全体ミーティングや各フロアの意見交換会で周知をしています。 継続的に取り組みたい内容や、ポイントでいれたい内容などを随時話しあうができるよう日々の中で職員間のコミュニケーションを大切にしています。	各研修の開催や、参加をしていきながら一人ひとりの知識向上を図り、より良い支援が提供できるよう学ぶ機会を設けていきます。 他事業所の見学や支援学校の訪問等毎年行っているため療育に使用する器具なども見せていただきながら教室の支援に反映させていきます。
2	イベントの実施が、年に5回ありそのうち4回がご家族参加型イベントの為、保護者様と関わる機会が多い。 イベントを楽しみにしてくださっている方も多く、職員も担当制で毎年チームを決めているので達成感を得られる。	イベントの中に保護者会時間を設け、悩み相談や意見交換会実施し参加しやすいよう工夫しています。 また、固定化しているイベントに加え毎年案をだし行先を変更して、イベントを実施しています。（親子遠足）	未だ参加したことない方も多くいらっしゃるので参加しやすいよう内容工夫してどのお子さまでも参加しやすいものを考案していきます。 保護者会についてもお子様の目標が近いことや学校別など、意見交換しやすい環境が提供できるよう工夫します。
3	建物の構造上、各フロアスペースが限られているのもあります が、だからこそお友達の動きが見えやすかったり、一軒家といふことで家に近い、アットホームな空間が提供できる。	あそびの内容でコーナー分けをしたり、活動内容によってはスペース確保ができるよう公園を活用したりしています。 使用する家具のいろみや、視覚情報が多すぎないよう工夫していくと共に、施設感なく過ごしやすい空間となるよう取り組んでいます。	定期的に家具の配置の見直しや、活動スペースが十分に確保できるよう環境を整えていきます。 クールダウンスペースを充実させ、気持ちを整える場が提供できるよう取り組んで行きます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	意見交換する場は多く、各々意見を出しやすい環境ではあるが、計画→実行まではいくものの見直しをして改善をしていく流れがうまくできていない。	たくさんの意見があがり、優先順位が決まっておらず一度にたくさんのこと取り組むことが多いため、どこまで進んでいるのかどうか不明確な物が多い。 また、振り返り期日などが定まっておらず、いつ振り返りを行うのか、そのくらいの時期を目安にもう一度話し合うのかなどが決まらない。	意見が上がった中で優先順位を決め、1つ1つ計画性をもつて取り組みを進めていく。振り返りや進捗状況を確認する時期を決め報告する場を設けていきます。
2	外部研修に参加しているメンバーに偏りがあることや、学んできたものを周知する場が少ないため、知識に差があり対応にも差が出てしまう。	研修に参加する目的が定まっておらず、個人の知識向上でまとまってしまっている。 月～日まで運営しているため、全体で研修する時間の確保ができない。	定期的に職員研修を実施する日を決め、あらかじめ保護者に周知をしていきご協力していただきながら時間を確保していきます。参加するメンバーが固定化されないようローテーションで順次研修を受ける事ができるようスケジュール管理を行います。研修受講後は、参加していない職員に報告する場を設けます。
3	各関係機関（特に学校や幼保）との情報共有の場が少なく、連携が取れているところとそうでないところの差が開いてしまっている。	送迎時にお話しさせていただくことはあるが、情報共有がしつかりできる機会が少ない。 相談員さんとの連携がとれていなかったりすることも現状の課題として残っている。	保護者様との面談時に、学校や幼保と連携をとることについてしっかりとご説明させていただきながら、相談員さんとの連携や情報提供を教室より密に行っていきます。 市で使用しているツールがあるため、活用しながら支援方法や支援時の様子など共有していきます。